

調査観測計画部会の活動状況

平成25年8月23日
地震調査研究推進本部
政策委員会調査観測計画部会

平成24年8月27日の第42回政策委員会以降、これまでの調査観測計画部会の活動状況は以下の通りである。

1. 平成25年度に調査する重点調査観測の対象活断層について

調査観測計画部会（部会長：平原和朗：京都大学大学院理学研究科教授）は、第58回会合において、平成25年度に調査する重点調査観測の対象活断層について検討を行い、罹災人口が多く社会経済活動に大きな被害を及ぼすことが予想されることや、他の活断層帯と比較して、地震発生確率（30年）および地震後経過率の最大値が相対的に高く、地震発生の可能性が高いと推定される等の理由から、中央構造線断層帯（金剛山地東縁－和泉山脈南縁）を選定することとした。

2. 「新たな活断層調査について」の一部改訂について

調査観測計画部会は、地震調査委員会で取りまとめられた「九州地域の活断層の長期評価」（平成25年2月）において、これまで基盤的調査観測の対象とされていなかった短い活断層や沿岸海域の活断層についても長期評価を行ったものの、データの不足等によって十分な評価が行えなかったものがあり、これらは今後調査が必要とされたため、活断層の長期評価を進めて行く上で調査が必要な活断層を、活断層調査の方針を示した「新たな活断層調査について」（平成24年2月一部改訂）に追加することを第58回会合で決定した。

3. 調査観測計画の見直しについて

調査観測計画は、平成13年に「基盤的調査観測計画」を見直した以降は、これまで「今後の重点的な調査観測について（平成17年）」「新たな活断層調査について（平成21年）」など必要に応じ、順次関連文書を追加することで対応してきた。今般、地震本部が推進する施策の方針を示した新総合基本施策が東日本大震災を踏まえ改訂されたことから、調査観測計画についても、基盤的調査観測計画のみならず関連文書をあわせ全体を見直すこととし、調査観測計画部会第58回会合より見直しの議論を始めた。第59回・第60回会合では、次期調査観測計画の全体の構成等についての検討が行われ、今後は、全体構成が固まり次第、個別の調査観測の在り方等について検討を行う予定。

表 最近の調査観測計画部会の開催状況

開催年月日	回	議題
平成25年 3月13日	第58回	(1) 平成25年度に調査する重点的調査観測の対象活断層の選定について (2) 「新たな活断層調査について」の一部改訂について (3) 調査観測計画の見直しについて
5月31日	第59回	(1) 海域の調査観測の現状や課題について (2) 調査観測計画の見直しについて
7月19日	第60回	(1) H26年度予算概算要求における地震調査研究プロジェクトについて (2) 海底地震・津波観測網整備の進捗状況について (3) 調査観測計画の見直しについて